

神戸メリケンパークオリエンタルホテル



ホテルの給湯配管は、銅が常識。

本当にお客様に納得いただけるサービスを…。その実現に役買ったのが銅管の存在であった。「24時間快適にお過ごしいただけるように、冷暖房や給湯に万全の体制を整えています。そのためにも給湯管には、実績と信頼ある銅管を使ってもらいました。何と云っても耐久性が抜群ですから。それに私たちにとって“給湯管は銅というのは常識”ですよ」。これに対し設備を担当された竹中工務店の田中氏は「給湯管に適した条件は、①耐久性②施工性③加工性といったところです。

私はずっと銅を利用していますが、やはり他の素材に比べて銅は使いやすいですね。この業界の悩みの一つに職人の高齢化がありますが、銅は軽量なためその点でも適応しています。また同社の元村氏も「私は銅しか使ったことがないのですが、ステンレス等に比べコスト的にも、やはり給湯管には銅が正解だと思っています。確かな評価をいただき採用された銅管。ところが思わぬ形でさらに大きな信頼を得ることになる。それが皮肉にも1月17日の阪神・淡路大震災であった。



震災で受けた被害の例

震災で実証された銅管の実力。

元村氏は当時の様子を次のように説明してくれた。「この建物は1、2階がフェリーターミナルでして、3月末にオープン予定でした。それでホテルも含めて建物全体の設備面の作業を先行して進め、震災当時には建物の動脈といわれる部分はすべて完成していたのです。ちなみに1月20日には受電検査の予定でした。それが震災のために多くの被害を受けてしまう。はたして銅管は大丈夫だったのだろうか。震災のチェックに約1カ月を費やしたという同社の茅島氏は嬉しい事実を教えてくれた。「壁にひびが入るなど、様々な被害がある中で、銅管はまったく問題がなかったんですよ。当時厨房以外の配管はすべて終了していましたが、銅管だけは水圧検査を行っても一切漏水がありませんでした」。さらに茅島氏はこう続けてくれた。「この建物は、震災に遭遇した中で一番大きなプロジェクトでしたから、何としても予定通りに完成して、神戸市民の復興の旗印としたい！そんな気持ちが関係者にありました。そんな中で銅管が無事であったことは進行的にも非常に助かりましたね」。

がんばろや、WE LOVE KOBE!

凄まじい震災の中でも、銅管の柔軟性、耐久性は、その真価を発揮して生き残ることができた。しかし、まだまだクリアしなければならない課題がある。最後に聞いた田中氏のセリフが耳に残る。「まあ樹脂管もそうなのですが、銅管のろう付けはひとつ誤ると漏水に繋がってしまいます。やはり経験者でなければ難しいですね。でも軽くて扱いやすい、腐食しにくい、まさに銅は素晴らしい材料ですよ」。銅管の実力は再認識されている。しかし継手やろう付などの技術的な普及体制をより確立していかなければ、その実力も発揮できないはまだ。ホテルの出入り口には“がんばろや、WE LOVE KOBE”と刻み込まれた石碑がそっと飾られている。それは、どんな困難にも負けない人々のたくましさの象徴。そこに刻み込まれた気持ちに込めて、我々もさらなる努力を続けていきたい。



まったく被害のなかった銅管



▲(株)竹中工務店・イチケン共同企業体作業所 課長代理 茅島 誠氏(左)
 (株)竹中工務店 設備部 設備課長 田中 一明氏(中)
 (株)竹中工務店 設計部設備課 元村 雅則氏(右)